

決算発表説明資料

2016年3月期 第3四半期

- 連結決算(経営成績)
 - 工作機械関連事業
 - 受注動向
 - 輸送機器関連事業
 - 財政状態

エンシュウ株式会社



連結決算(経営成績)

●第3四半期(累計)業績概要

減収、営業利益黒字化

売上高18,767百万円(前年同期比15.6%減)、営業利益263百万円(前年同期は97百万円の損失)と減収ながら営業利益は黒字を確保致しました。ベトナムドンの下落等に伴う為替差損141百万円が発生したため、経常利益は36百万円の損失(前年同期は268百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は121百万円の損失(前年同期は339百万円の損失)と赤字を余儀なくされましたが、損益の状況は着実に改善してきております。

●通期業績予想

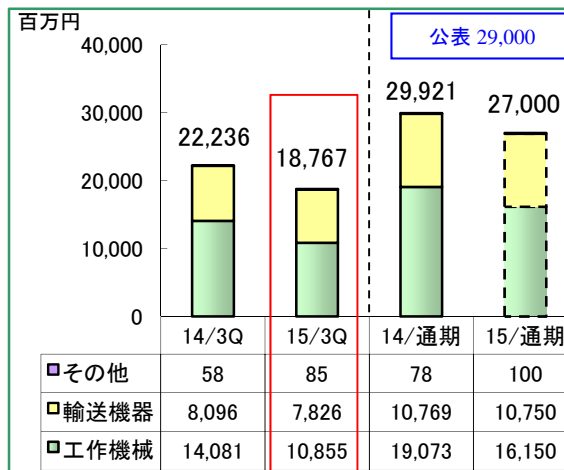
通期純利益黒字化の見通し

4Q(1月~3月)は3Q(10月~12月)を上回る売上、利益を見込んでおり、大きな為替差損の発生がなければ当初計画通り通期で純利益100百万円の黒字化(前期は582百万円の損失)を予想しております。

(注) 第4四半期および通期為替差損益については、あくまでも当社推定値であり、今後の為替変動により変動します。

【前年同期比較】(累計)

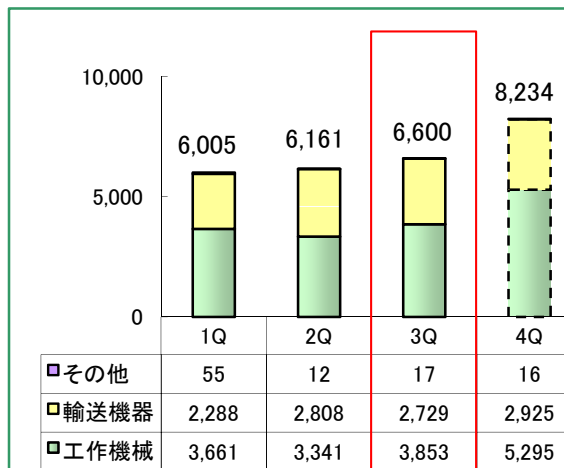
売上高



※15/通期は予測

【四半期比較】

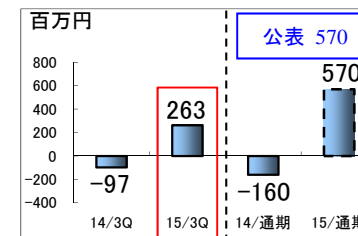
売上高



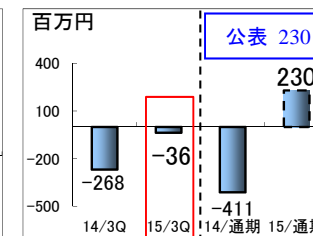
※4Qは予測

公表=前回業績予想(11/10)

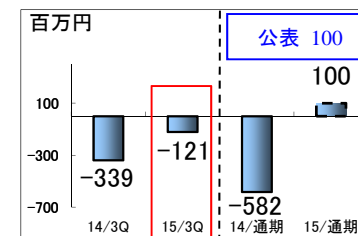
営業利益



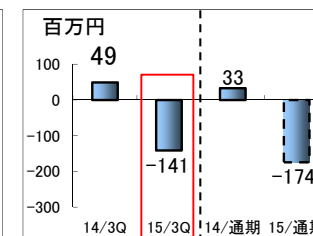
経常利益



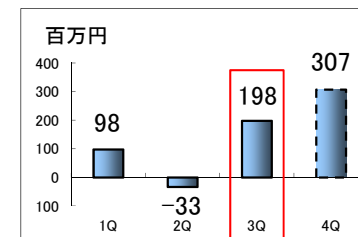
四半期純利益



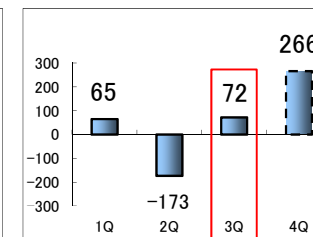
為替損益 (注)



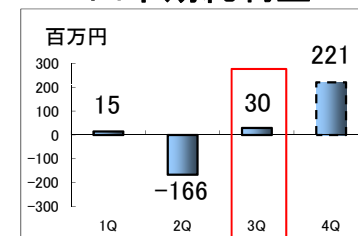
営業利益



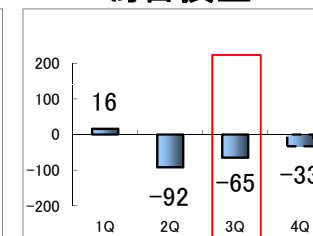
経常利益



四半期純利益



為替損益 (注)



工作機械関連事業部門(経営成績)

●第3四半期(累計)業績概要

減収、増益

売上高につきましては、中国向が減少、アセアン向も低迷が続いており、アジア地域の先行き不透明感の否めませんが、国内および欧州が減少分をカバーした結果、10,855百万円(前年同期比22.9%減)となりました。

営業利益につきましては、前期はシステム(*1)案件を中心に追加コストが発生し採算が悪化したことから、当期はプロジェクト毎にプロジェクトマネージャーを配置し、採算管理を徹底した結果、241百万円(前年同期比67.5%増)と増益になりました。

●通期業績予想

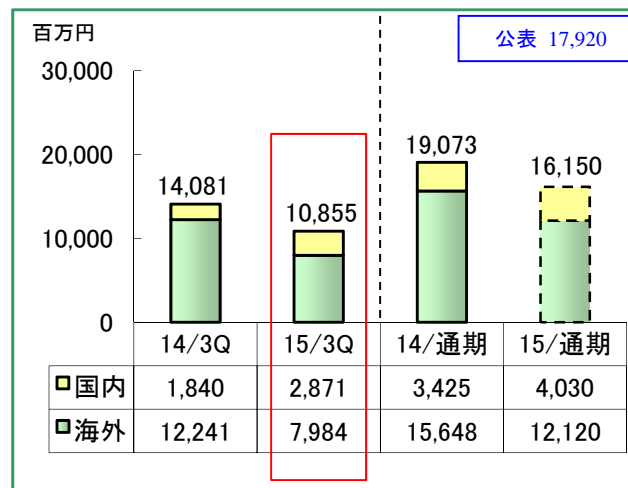
増益見通し

4Qはシステム(*1)案件による中国向の売上高増加に加え、国内および欧米も堅調に推移することから、3Qを上回る売上、利益を見込んでおり、通期で営業利益450百万円(前期比195.5%増)と大幅な増益を予想しております。

*1 システムとは、マシニングセンタと周辺機器(搬送装置、ロボット等)で構成する加工ライン。

【前年同期比較】(累計)

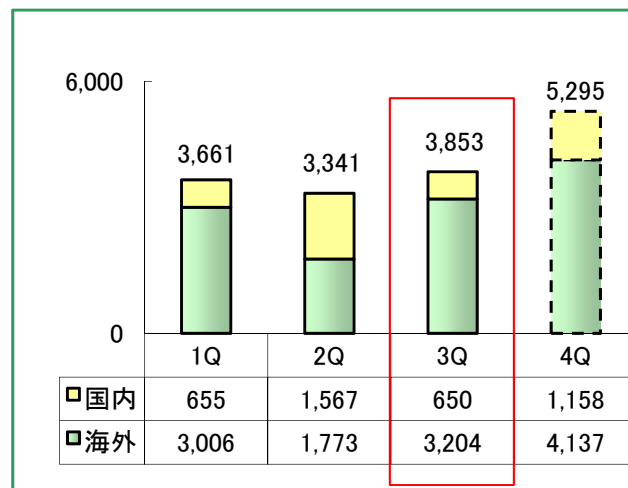
売上高



※15/通期は予測

【四半期比較】

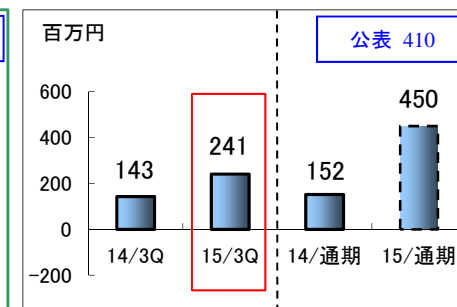
売上高



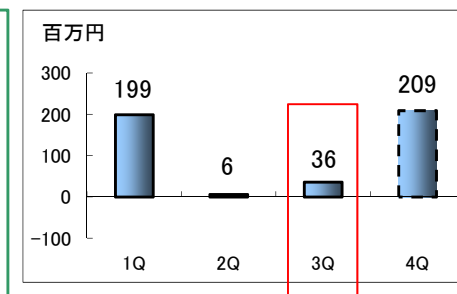
※4Qは予測

公表=前回業績予想(11/10)

営業利益



営業利益



工作機械関連事業部門受注動向

●受注高

受注増

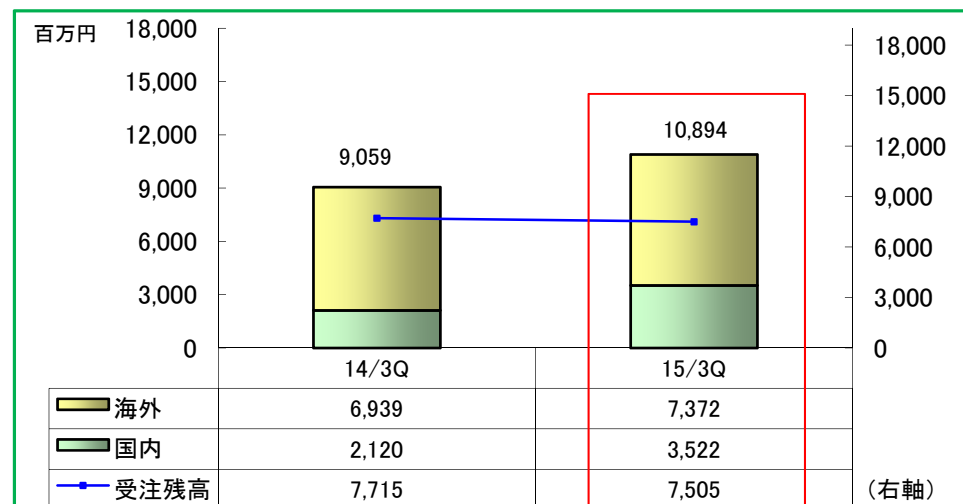
中国向の受注は減少しましたが、国内メーカーおよび欧米メーカーへの拡販によりカバーした結果、第3四半期累計受注高は10,894百万円と前年同期比20.3%増を確保しました。

●受注残高

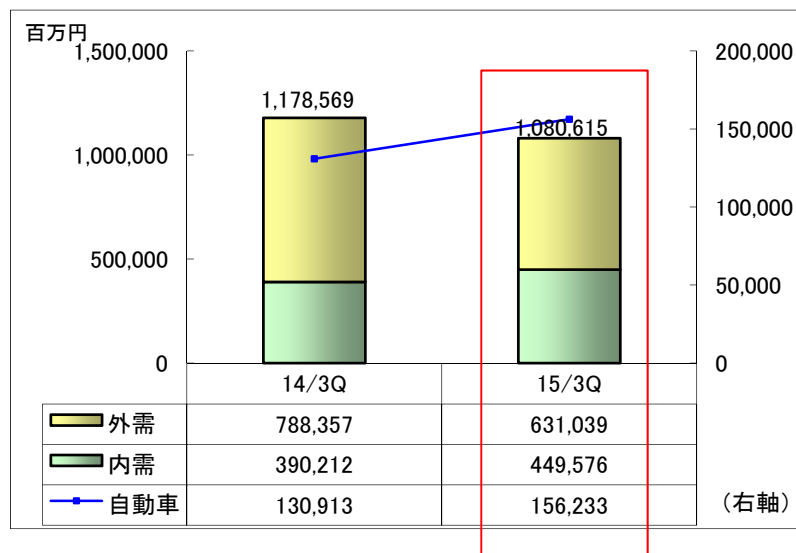
短納期化により受注残高は微減となっておりますが、国内および北米からの引き合いは依然強く、今後とも安定的な受注残高を維持できるものと見込んでおります。また、今後はインド、メキシコなど新しいマーケットの開拓にも力を入れていきます。

☆ 当社の受注高及び受注残高推移

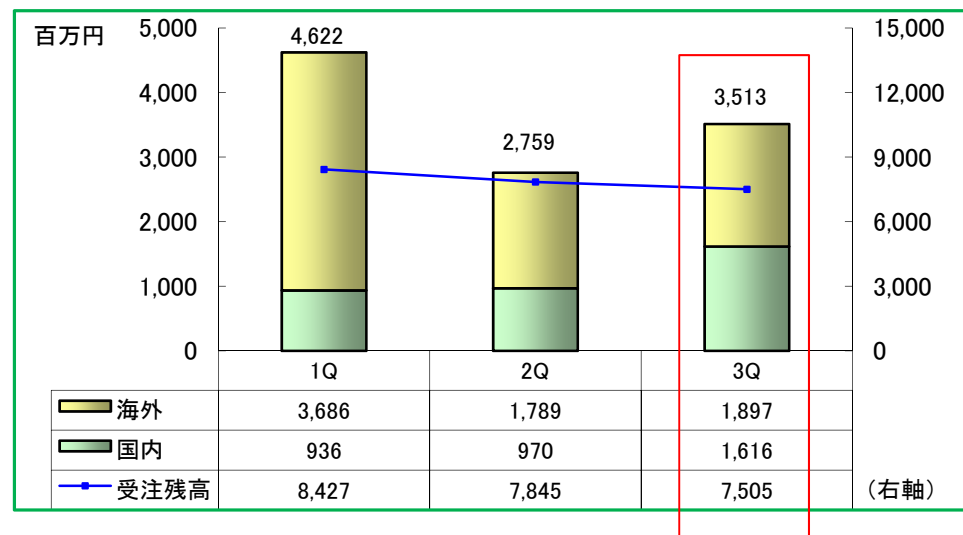
【前年同期比較】(累計)



☆ 日本工作機械工業会受注推移



【四半期比較】



輸送機器関連事業部門(経営成績)

公表=前回業績予想(11/10)

●第3四半期(累計)業績概要

ベトナム拡大、国内も回復

売上高につきましては、ベトナム現地法人の売上が着実に拡大しており、国内も1Qは落ち込みましたが、2Q以降は高水準を回復しており、第3四半期累計売上高は7,826百万円(前年同期比3.3%減)となりました。

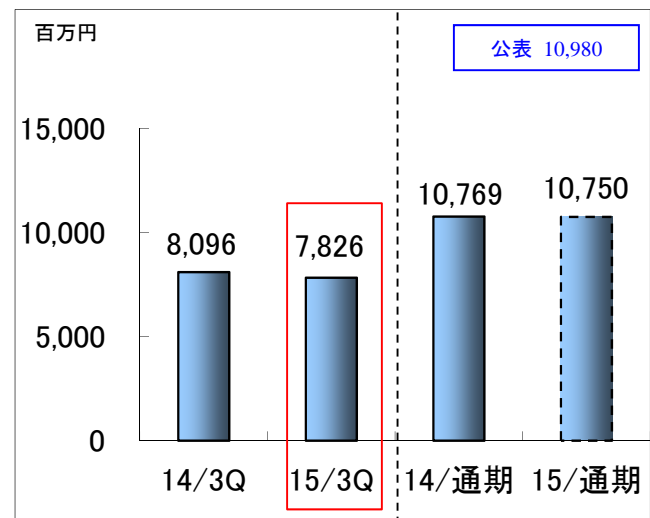
営業利益につきましては、ベトナム現地法人の増収効果に加え、国内もヤマハ発動機向け売上が改善していることから3Q(10月~12月)に黒字化を達成しました。第3四半期累計では上期赤字を打ち返すことができず47百万円の損失(前年同期は282百万円の損失)となりましたが、損益状況は着実に改善しております。

●通期業績予想

営業利益は黒字化の見通し

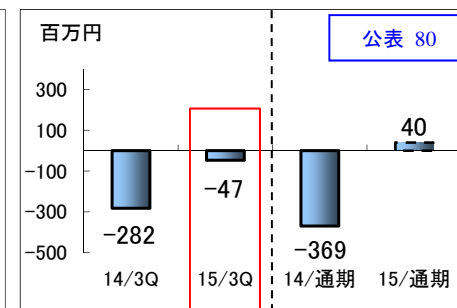
第4四半期もベトナム現地法人の売上拡大は継続しており、国内売上も高水準を維持できる見通しであることから、通期では営業利益40百万円(前年同期は369百万円の損失)の黒字化を予想しております。

【前年同期比較】(累計) 売上高



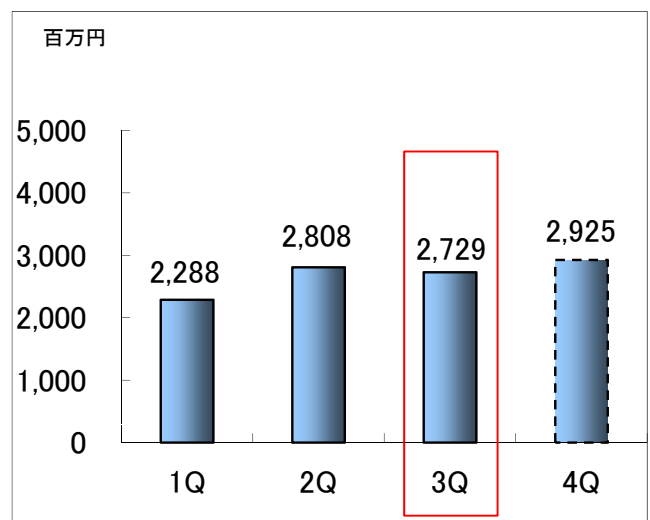
※15/通期は予測

営業利益



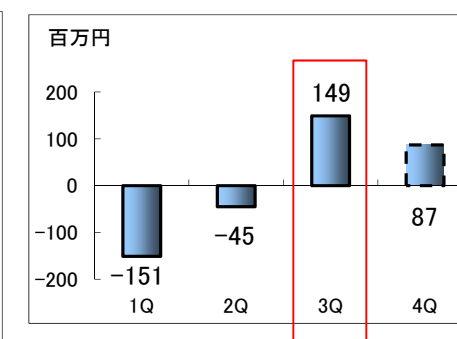
【四半期比較】

売上高



※4Qは予測

営業利益

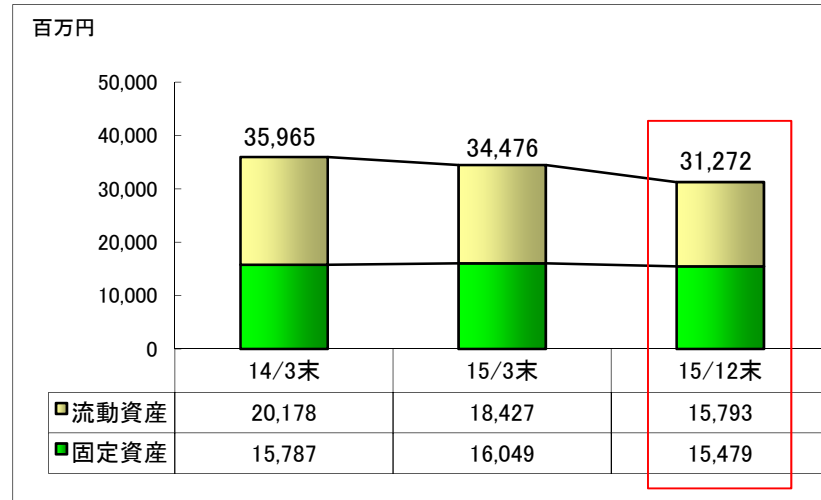


財政状態

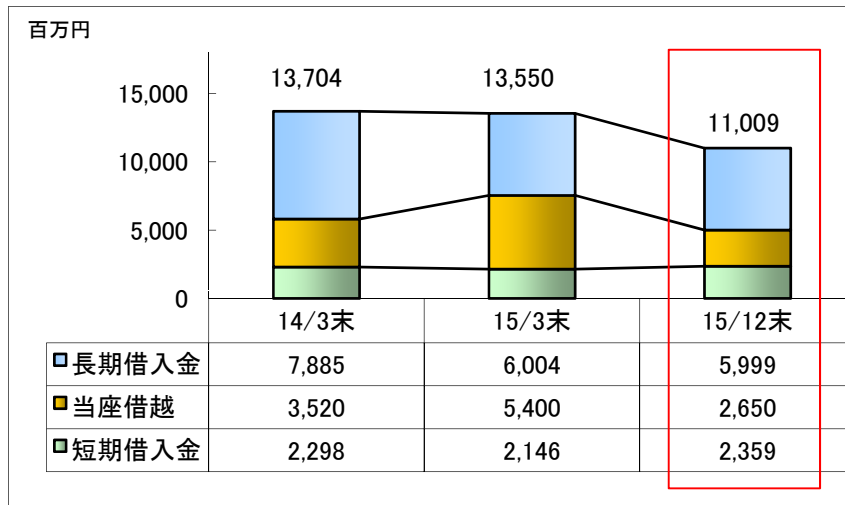
● 財政状態

一昨年よりバランスシートの改善にも注力してきておりますが、運転資金の圧縮により借入金は着実に減少しています。また、総資産圧縮により(15/3末比▲3,204百万円)、自己資本比率も改善しております。

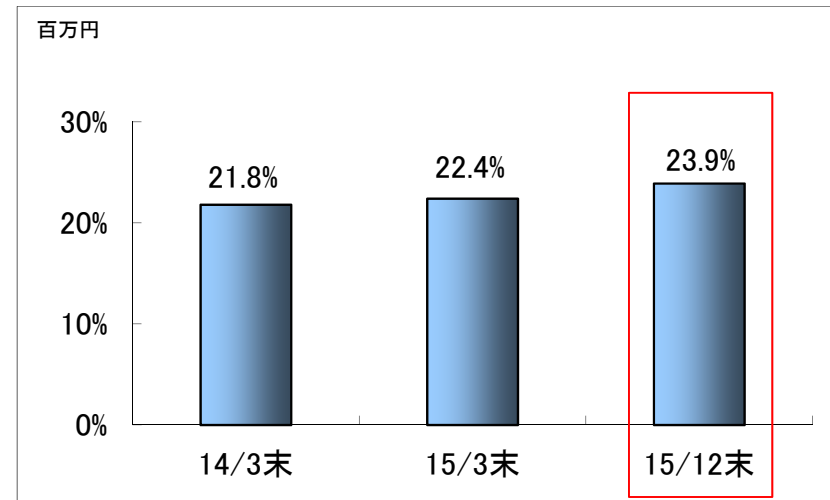
総資産



借入金



自己資本比率



注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。